

1 審議会名	上田左岸地域協議会
2 日時	令和5年11月16日 午前10時30分から
3 会場	城南公民館 大ホール
4 出席者	赤堀委員、浅川委員、小林委員、小山委員、田中委員、田村委員、富田委員、西入委員、羽田委員、樋口委員、松田委員、宮崎委員、宮下委員、柳澤委員、山岸委員、山田委員、和田委員
5 市側出席者	【事務局】滝沢城南地域振興政策幹、間宮塩田地域自治センター長、藤沢川西地域自治センター長、遠藤地域振興政策幹、滝澤地域内分権推進担当主査、清水地域内分権推進担当主任、芳池地域内分権推進担当主事
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和5年11月27日

## 協 議 事 項 等

## 1 開会

## 2 会長あいさつ

## 3 協議事項

## (1) 各分科会からの調査研究にかかる進捗状況の報告

## 【第一分科会】(小山分科会長から報告)

## まちづくりに関する補助金の検討について

上田市のまちづくりに関する補助金は、自治会を対象としたものがほとんどで、その他だと、住民自治組織への交付金の金額が大きい。わがまち魅力アップ応援事業に対する補助金は、地域協議会で採択の協議を行ってきたが、令和元年で新規の募集は終了となった。代わるものとして活力あるまちづくり支援金が始まっているが、100%の補助ではない。自治会、住民自治組織、わがまち魅力アップ応援事業、活力あるまちづくり支援金の3つが市民から見ると、まちづくりの補助金となる。

自治会向けの補助金を検討するために、上田左岸地域の自治会長にアンケート調査を行った。補助制度については担当課からの資料提供と説明を受けたほか、「自治会の活性化に向けて」の報告書や「上田の大危機を乗り越えるための5つのヒント」などの資料も参考にした。

アンケートは7割程の回答率で、自治会としては高齢者の増加と自治会未加入者の増加も相まって、自治会収入は減少しているということ。今後も減少すると予想する自治会長が8割を超えていた。自治会費の値上げも困難であり、自治会事業の中止、縮小する自治会も多く、自治会役員のなり手や自治会内作業への参加者が減少する一因ともなっている。

アンケート結果を踏まえ、自治会活動を支える補助金の見直しの検討が必要と考える。

(1)①共同集会施設の新設、改修、耐震等の補助金は、「基幹集会施設」のみを対象としているが、特に川西地域は農村部のため、「班」の集会所がかなりあるが、維持管理や改修費用は班で負担している。「基幹集会施設」以外に「班」の集会施設も補助の対象に追加、もしくは別途補助金の創設を希望する。②改修補助金は交付後5年間交付されないが、年次計画による改修を可能にするなど、交付制限期間の見直しをいただきたい。③基幹集会施設の改修等が緊急の場合については、柔軟な対応を図ってほしい。

(2)コミュニティ活動等交付金は、環境整備や自治会施設の維持管理、運営に関する自由度の高い交付金であり、今後の自治会活動を支援する上で重要である。自治会が地域課題の解決や住民ニーズに応じた独自の取

り組みをより一層推進できるよう、地域の状況に合わせて自由に使える工夫が必要である。

コミュニティ活動交付金は、基本的な自治会活動を支援するため、現行の均等割額に加え、世帯割による加算を導入してもらいたい。自治会費の減少が著しい自治会については、新たな補助算定基準の検討をしていただきたい。

住民の安全・安心、生活環境を確保する補助の充実として

(1)防災用資機材、防犯灯、小型除雪機等補助金があるが、①現年度に必要となる緊急度の高い防災用資材、防犯灯の設備等は、現年度の申請や交付も可能として予算面の対応を図ってもらいたい。②防犯灯の撤去費用について、破損修理も対象としてもらいたい。③自治会が行う市道の除雪に対する燃料等への補助を検討してもらいたい。

(2)ごみ集積場の設置、資源回収促進補助金①ごみ集積場の修繕も補助金の対象としてもらいたい。②ビンやアルミの回収単価が下落しており、自治会の収入が減少している。回収最低単価の増額と一升ビンや布類の回収の促進をお願いしたい。

自治会事務の合理化と運営への支援として、自治会の負担軽減の一層の推進や、運営に関する研修などの充実を図るソフト面の支援をいただきたい。また、自治会長に対する丁寧でわかりやすい補助制度の説明もお願いしたい。自治会長が1年で交代する自治会も多いことから、地区自治会連合会ごとの説明会の開催や、補助を活用した事例の市ホームページへの掲載についての検討をいただきたい。

将来的に市の財政はかなり減少する予測ではあるが、地域内分権の確立に向けて自治会への支援の充実強化は不可欠と思われる。上田市自治会連合会などとも協議を図り、よりよいまちづくりを進めていただきたい。

#### 【第二分科会】（浅川分科会長から報告）

地域の教育、福祉について調査研究を行っている。子どもの貧困率が高い、新型コロナウイルスを契機とした不登校児童の増加が現実としてある。地域行事も復活しつつあるが、多世代が集まるような交流の場が無くなってしまっている。

塩田公民館で子ども食堂が月1回開かれており、視察に行った。多世代が交流し、子どもたちものびのびと遊んでおり、素晴らしい取り組みであった。上田市の公民館を使って、多世代交流の場ができないか。をテーマに考えてきた。

長野県でも信州こどもカフェ事業を行っているので、上田市にも対応するような受け皿を作っていただけないか。そこから市内各公民館に情報を出していただけないか。塩田公民館の場合も、公の施設で開催している安心感もあり、親も来やすいとのことだった。携わる組織として、社会福祉協議会ではフードドライブを行っており、市から何か補助できないか。長野大学生がボランティアで参加しており、公立化により上田市の大学となり、地域づくり総合センターを新たに作った。ボランティアで来るだけでなく、活動に参加する学生にはボランティア活動の単位化を認め、多くの学生に参加してもらえるよう、市からも働きかけていただきたい。

この内容を本日の分科会で成案にまとめたいと考えている。

#### 【第三分科会】（松田分科会長から報告）

産業、地域振興を大きなテーマに取り組んでいる。中間報告では左岸の交通の活性化について報告を行っ

たが、話を重ねた結果、既存の地域資源を有効活用しての、地域活性化について意見をまとめた。意見書としての内容はほぼ決まっており、形にはなっている。

左岸地域における農産物のブランド化の推進と共に、六次産業化に持っていければ一番良い。六次産業化による新たな商品の開発の提案への支援をお願いしたい。

ブランド化と共に特産物の知名度を上げる必要がある。PR や販路開拓による地域活性化をお願いしたい。上田市でも地産地消を進めているが、地産地消しているお店については地産地消推進店として認可を与えているが、利用が広まっていない。周知徹底をお願いしたい。

浦里地域で農産物の規格外品の販売を、JA で試験的に始めているとのこと。生産者の所得にも、SDGS にも繋がる良い取り組みであり、進めていただきたい。

左岸地域の別所線、143 号線の沿線利用を考えることが必要。将来的に松本と繋がるようになっており、上田を通過点として捉えるのではなく、泊まって貰えるよう、沿線の活性化を考えて貰いたい。空き家の利活用について希望者と、建物所有者との協議に協力いただきたい。わかりやすく効果的な空き家情報の発信を考えていただきたい。

## (2)各分科会協議「第1分科会」「第2分科会」「第3分科会」

上田左岸地域の課題について

分科会ごとに分かれて意見交換

【第1分科会：自治・まちづくり】

「上田市のまちづくりに関する補助金等の検討について」の意見書（案）を示して協議

以下、主な意見

・添付するアンケート集計結果も含めると相当な分量になることになるが、補助制度ごとに担当部署が異なることから、それぞれの担当課にしっかり実情を認識してもらうためには、分量が多くても必要である。

・補助金の内容の細かなところまで指摘している点について、例えば総合計画のように総花的で総括的な整った文章よりも、泥臭くても実態が伝わるような本案がよい。

・重要なものに焦点を当ててインパクトのあるものにし、細かな点はアンケート集計で伝わることでよいのではないか。

→協議の中で、個別に具体的に伝えた方が各々の課題に対して行政側の回答を得られやすく、体裁を整えるよりも実を取ることを優先させる方向で合意された。

・それぞれの補助金について、担当課が最善であると考えた施策をもとに制度設計しているため、他者からの指摘がないと担当課自らが制度を見直すことは少ないと考えられることから、地域協議会からの意見があったことをきっかけに見直しや検証が進むことが期待できる。

・「まとめ」の部分に関して、今回は上田左岸地域の自治会に対してアンケートを行ったことを記しているが、成果があるならば全市的にアンケート調査を実施すべきと提言に盛り込むのはどうか。

→全市的な調査等は自治会連合会等が自ら考えて実施を検討すべきことであり、意見書には取り上げないこととした。

【第2分科会：子育て・福祉・教育】

意見書（案）の確認

委員からの意見

- ・内容と件名が一致していないイメージがある。
- ・「公民館を利用した」と前置きした方がよいのではないか。
- ・公民館のメリットはあるが、現在公民館で行っているのは塩田公民館と武石公民館の2か所のみである。
- ・いろいろな面を網羅すると、原案のままでよいのではないか。
- ・長野大学生の単位の認定について、上田市と大学側とで検討していただきたいと強調したい。

### 【第3分科会：産業・地域振興】

調査・研究テーマについて協議

以下、委員からの主な意見

- ・ナカセンナリは、需要があり過ぎても、現状では供給が追いつかないため、塩田産をうたっていない場合がある。松本市にある豆腐店で使用している。今後増産もできればと考えているが、担い手不足が問題である。
- ・大豆は、設備投資はあまり必要ないが、収入を得られるのは2、3年先となる。
- ・大豆の栽培方法を学べる講習会などがあれば、関心のあるシルバー世代などの受け皿になるのではないか。
- ・浦里にあるセミドライ加工施設に関しては、現在、試験的製造を行っており、12月に試験販売を行う予定である。供給先はまだ決まっていない。
- ・上田電鉄別所線無人駅ナカサービスは、駐車場スペースにおけるキッチンカーの出店も考えられる。
- ・農産物直売所に関する提言は、具体的内容が見えないので再検討する。
- ・「小規模でも地元生産者が販売できる施設はないか」を考えていくことから始まった話なので、そこを絡めていけばよいのではないか。
- ・今回の提言で、市がひとつでも上田左岸地域の農業資源の可能性を汲み取り、そこから地域活性化へ広がっていけばよい。

### (3) その他

(事務局)来期の開催日時について、今期と同様としてよろしいか。

(会長)今期も全員の都合は一致しなかった。来期についても、今期と同様にせざるを得ないのではないか。

-今期と同様の開催で決定-

### 4 その他

次回の開催予定

日時 12月21日(木) 午後1時30分から

場所 塩田公民館 大ホール

### 5 閉会